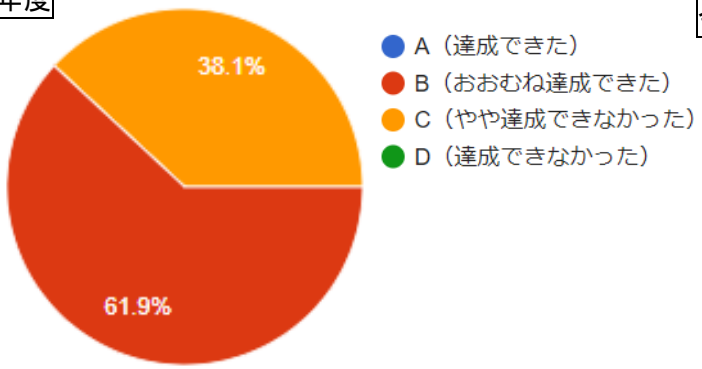
令和７年度　学校自己評価（中間）まとめ

今年度、城下小学校では、学校教育目標「まなび　きたえ　ともにのびる子　～今を・未来を喜びをもって生きる子ども～」のもと、「自分から　つなげるあいさつ、つなげる学び、つなげるこころねっちゅう、ぼっとう、ひたむきに取り組む　城下っ子」を重点目標に据えて、全職員で取り組んでおります。今年度前半の取組について、学校職員でふり返りを行いました。成果と課題を見極め、学校運営の後半に生かし、よりよい学校づくりをめざしていきたいと思います。

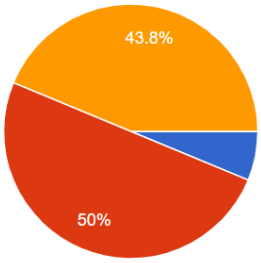
１．　今年度の重点目標

（１）自分で考え動き出す力

令和７年度



令和６年度



【児童の姿】

授業や生活の中で、自分で考えて行動しようとする児童が増えてきた。学習では問いをもって学びに向かう姿や、行事・委員会活動などで仲間と協力しながら主体的に取り組む姿が見られるようになり、少しずつ自律的な力が育ってきている。

【教職員の取組】

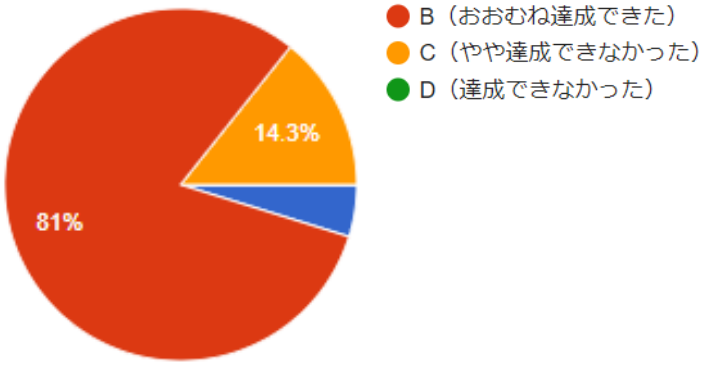
子どもが自ら考える機会を意識的に設け、問いかけや話合いを通して考えを引き出す授業づくりを進めた。活動のねらいを明確にし、子どもの意欲や発想を生かすよう支援したことで、主体的に学ぶ雰囲気が学級全体に広がってきている。

【今後の改善点】

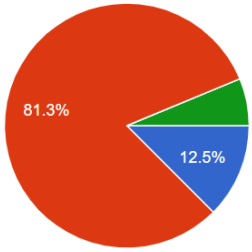
教師の指示や誘導に頼る場面を減らし、子ども自身の考えを尊重しながら任せて見守る姿勢をさらに大切にしたい。自分で考えて動く力を継続・発展させるために、達成感を味わえる活動や振り返りの機会を一層充実させていく。

（２）関わり感じる力

令和７年度



令和６年度



【児童の姿】
友だちと助け合い、認め合いながら活動する姿が多く見られた。授業や行事、こすもすタイムなどで互いの良さを感じ取り、協力して取り組む力が育ってきた。一方で、関わりが限定的であったり、相手の立場を想像することが難しい児童もおり、課題も残る。

【教師の取組】
ペア・グループ学習や学年間交流、地域とのかかわり活動など、他者と協働する場面を意識的に設定した。子ども同士が互いの考えを伝え合い、支え合う姿を認める声かけを心がけ、相手を受け止める温かな雰囲気づくりに努めた。

【今後の改善点】
関わりの幅を広げ、誰とでも協力し合える関係づくりを進めていきたい。相手の気持ちを想像し、思いやりをもって行動できるよう、日常の中での振り返りや感情共有の場をさらに充実させていく必要がある。

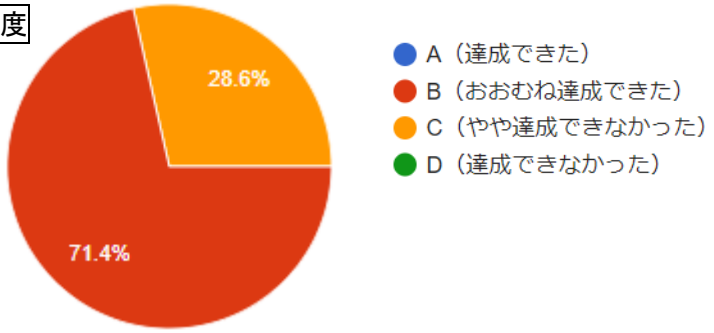
２．めざす子どもの姿

（１）自ら求めて学び合う子ども

『「あらわす」「はなす」「つなげる」ことを通して学びを豊かに』

自分の考えを書いたり発言したりして表現しよう

令和７年度

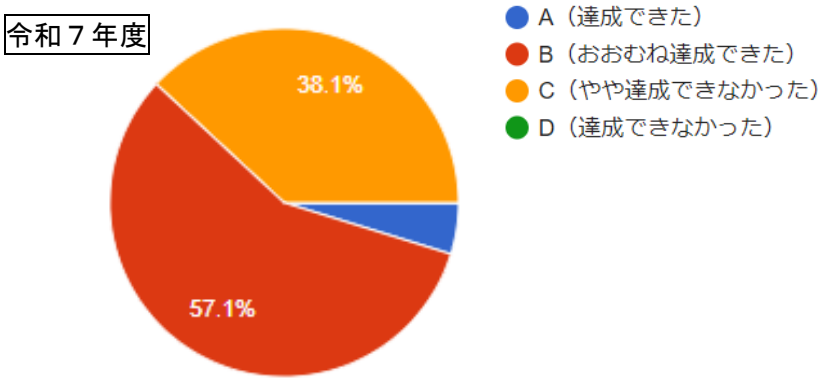


【児童の姿】
自分の考えをノートやワークシートに書いたり、発言したりする姿が増えてきた。ICT を活用することで、発言や表現に苦手意識のある児童も、自分の考えを伝えようとする意欲が高まっている。表現方法の多様化が進み、思いを表す力が育ちつつある。

【教師の取組】
一人ひとりの表現の仕方を認め、スモールステップで発言を促したり、ペアやグループで意見を共有したりする場を設けた。ロイロノートやパドレットなど ICT の活用により、誰もが自分の考えを安心して表現できる学習環境づくりを進めた。

【今後の改善点】
考えをもつことや伝えることに自信をもてない児童への支援を充実させたい。理由や根拠をもって自分の考えを伝えられるよう、ペア・グループでの交流や振り返りを繰り返し、表現する力と自信の双方を高めていく必要がある。

自分の考えを友だちと伝え合おう

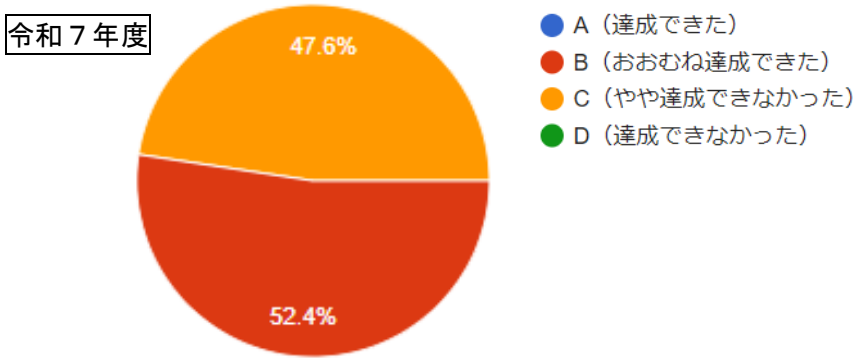


【児童の姿】
　ペアやグループで意見を伝え合う活動を通して、話すことに慣れ、進んで自分の考えを話す児童が増えた。特に少人数の場では自信をもって発言できる姿が見られ、友だちの意見を参考に考えを広げようとする様子も見られた。

【教師の取組】
　朝のトークタイムや授業でのペア相談・グループ交流など、伝え合う機会を多く設けた。ロイロノートやパドレットを活用し、表現が苦手な児童にも発信の場を保障した。学習の目的や時間配分を意識し、協働的な学びを促した。

【今後の改善点】
　特定の児童や教師中心のやり取りに偏らず、全員が安心して意見を交わせる雰囲気づくりを進めたい。相手の意見を受け止めて自分の考えを再構築するような「深まりのある対話」へと発展させる指導を工夫していく必要がある。

友だちの考えや今まで学んだことをいかし、自分の考えをよりよいものにしよう



【児童の姿】
　ICT や話合い活動を通して、友だちの考えを聞こうとする姿勢が育ってきた。友だちの意見を参考にしながら、自分の考えをよりよくしようとする場面も見られるようになった。失敗や他者の工夫から学び、試行錯誤しながら取り組む力が伸びている。

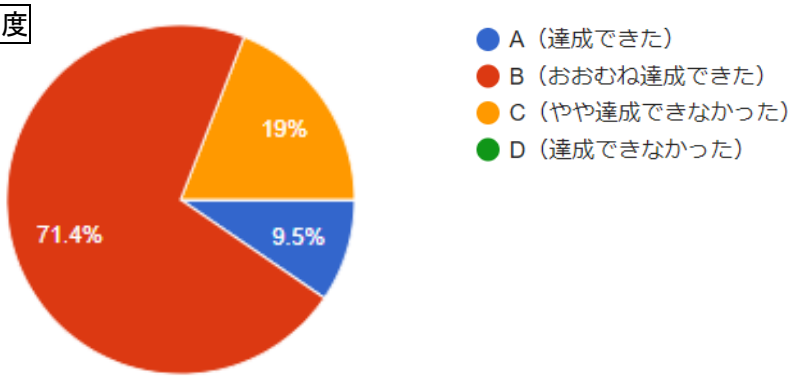
【教師の取組】
　グループ交流や ICT 活用を取り入れ、児童同士が意見を共有しやすい環境を整えた。交流後に個人で考えを整理する時間を意識的に設け、学びを個に還元する工夫を進めた。振り返りの書き方を具体的に示し、考えを深める支援を行った。

【今後の改善点】
友だちの意見を聞いて終わりにせず、自分の考えに取り入れたり再構築したりする力を育てたい。比較・理由付け・振り返りを通して、学びの過程を自覚できるようにする。全員が安心して意見を交わせる対話の場づくりをさらに工夫していく。

（２）明るくたくましい子ども
『「三方よし」心を交わすあいさつ、コミュニケーション、笑顔』

あいさつをした人、あいさつをされた人、まわりの人みんながうれしくなるあいさつをしよう

令和７年度



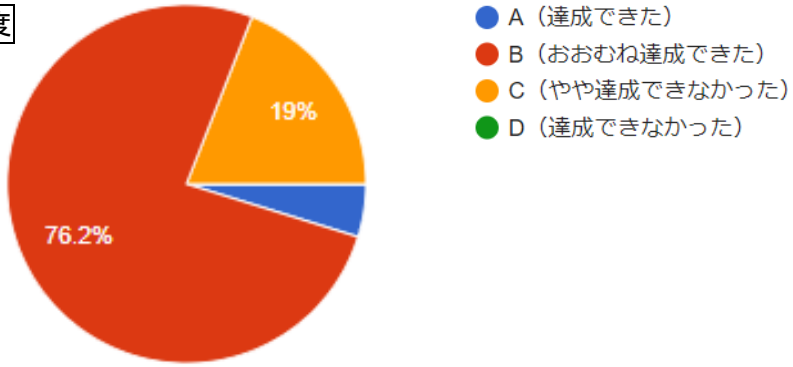
【児童の姿】
自分から進んであいさつをする児童が増え、明るい雰囲気が広がってきた。あいさつの大切さを理解し、気持ちのよい言葉のやり取りを意識する姿が見られる。一方で、相手や場面によってあいさつに差があるなど、まだ個人差も見られる。

【教師の取組】
日常の中で教師から積極的に声をかけ、児童のよいあいさつを認めてきた。朝や帰り、給食など生活の節目で声をそろえてあいさつする機会を設けた。地域の方や工事関係者との交流を通して、あいさつの喜びを実感できる活動を行った。

【今後の改善点】
誰に対しても自分からあいさつできる児童を育てていきたい。形だけでなく、相手の気持ちを考えた心のこもったあいさつができるよう、場面ごとの指導を工夫する。うれしかったあいさつ体験を共有し、学校全体で温かい雰囲気を広げていく。

自分らしいあいさつで心を交わそう

令和７年度



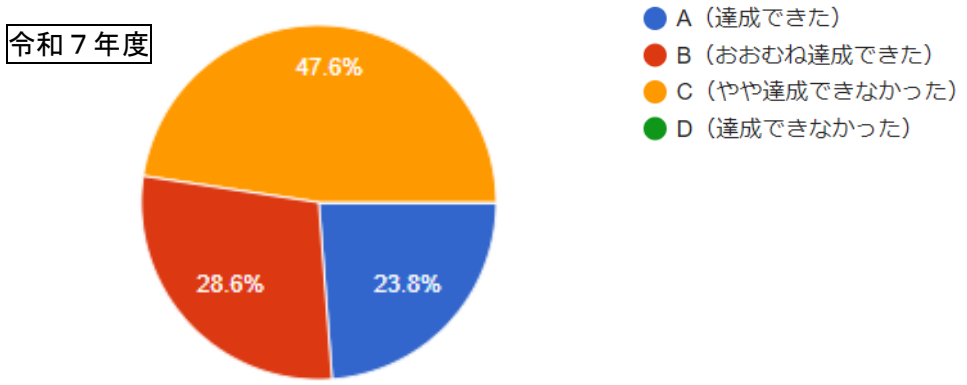
【児童の姿】
元気にあいさつをする児童や、恥ずかしそうに頭を下げる児童など、様々な姿が見られる。定型的なあいさつだけでなく、自分の言葉や表情を添えて気持ちを伝える姿もあり、友だち同士で認め合う様子が増えてきた。

【教師の取組】
　校長講話や月の生活目標であいさつの意義を伝え、教師自身も毎日一人ひとりと目を合わせ、声をかける取り組みを継続してきた。友だち同士や地域の方との自然な挨拶の場を設定し、心のこもったあいさつの定着を図った。

【今後の改善点】
　校舎内での登下校や急ぎの場面でも、誰に対しても届くあいさつができるようにする。挨拶の形だけでなく、相手の気持ちを意識した言葉や表情の工夫を広げ、学校全体で心の通うあいさつ文化をさらに定着させたい。

（３）友や地域と関わり感じ合えるこども
『城下地域の「人、もの、こと」のよさや地域の方への感謝（協働的な学び、生活科・総合）』

地域や人々と関わる活動を通して、地域のよさや地域に生きる自分のよさを感じよう



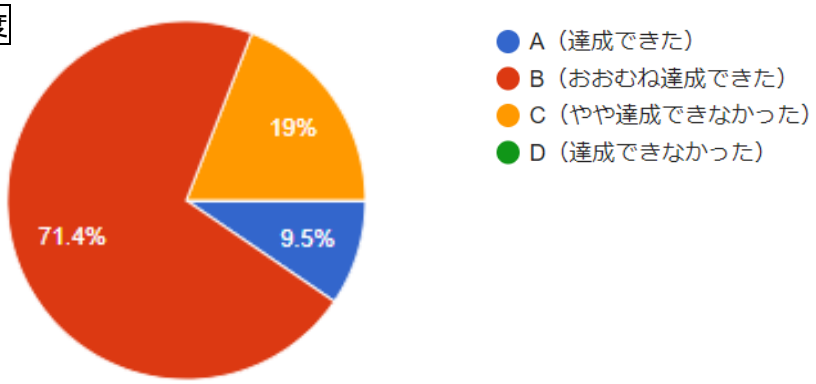
【児童の姿】
　生活科や総合の学習で地域探検やお店訪問などに意欲的に取り組み、地域の人々の思いや仕事の様子に触れる姿が見られた。地域の良さを感じ、自分の役割や活動を考えながら主体的に学習に向かう児童も増えてきた。

【教師の取組】
　地域の方々との交流の場を設定し、取材や体験学習を通して児童が地域に関心をもてるよう支援した。地域資源を生かした学習課題や活動の見通しを提示し、児童が主体的に取り組める環境づくりに努めた。

【今後の改善点】
　地域活動の機会が十分でないため、児童が地域に生きる自分のよさや役割を意識できるよう、活動の幅や振り返りの時間を増やす必要がある。学びを児童個人の成長に還元できる仕組みづくりも進めたい。

学校や地域を支えてくださっている方々に感謝しよう

令和７年度



【児童の姿】

地域の方やボランティアの方々との関わりを通して感謝の気持ちを持ち、直接お礼を伝えたりメッセージを届けたりする姿が見られる。身近な支えに気づき、心を込めて関わろうとする児童も増えている。

【教師の取組】

地域の方々との交流の場や体験活動を設定し、感謝の気持ちを意識させる声かけや手紙作りなどの機会を提供。子どもたちが支えられていることに気づき、感謝の思いを行動に表せるよう支援した。

【今後の改善点】

日常生活における感謝の表現が十分でない児童もいるため、あいさつや声かけ、行動での感謝を自然に行えるよう、学級や学校全体で仕組みづくりを進めたい。特別な場だけでなく日常に広げることが課題である。